

2013 - 2026



やまがた
秋の芸術祭

被爆ピアノ平和コンサート in YAMAGATA 2026

“広島被爆ピアノと山形”

—今年も広島被爆ピアノが来県します—

平和の尊さを今に語り継ぎ、そして私たちの心に『平和の種をまく』ために、今年も広島から被爆ピアノがここ山形の地にやってきます。

2013年に始まった被爆ピアノの来県は、今年で14年目を迎えます。この間、260回を超える平和コンサートが、県内各地で開催されました。

演奏者を公募し開催してきたこのコンサートも今年で10回を数え、これまで延べ250組を超える演奏者の皆様に、平和の音色を紡いでいただきました。今年、被爆ピアノと山形の歩みを振り返りつつ、これまでのこの取り組みを力強く支えてくれた、『所縁(ゆかり)の演奏者』によるステージをお届けします。



2026年10月17日(土) 開演 13:30 (開場 13:00)

山形市中央公民館ホール 山形市七日町1-2-39 アズ七日町6階

■出演者 シンガーソングライター 南壽あさ子 キーボーディスト 橘 光一 特別ゲスト 日本舞踊 大沢 健(映画『国宝』出演)
山形センター合唱団 長岡 茉紘(pf) 実行委員会 近藤阿由良(pf) 三浦邦明(vc) その他

■主催 被爆ピアノ平和コンサート in YAMAGATA 実行委員会

【問い合わせ】平和コンサート実行委員会 hibakupiano2018@gmail.com

※被爆ピアノ平和コンサートは、山形市の「やまがた秋の芸術祭」に参加しています。

※当日の入場は無料です。皆様には、被爆ピアノ平和コンサート活動に賛助いただければ幸いです。

実行委員会
Facebook





□ 被爆ピアノのこと

昭和20年(1945年)8月6日、午前8時15分、アメリカ軍の原爆搭載機「B29エノラ・ゲイ号」が投下した原子爆弾は、広島の上空580mで炸裂しました。爆発時の熱線と爆風が、一瞬のうちに広島をつつみ、爆心地周辺の地上の温度は、3000~4000度に達しました。半径約2Km内の建物は、爆風でほとんどがなぎ倒され、焼き尽くされました。多くの人々が命をおとしました。この中には、朝鮮、台湾や中国のひとつと、アメリカ兵捕虜も含まれていました。この本に登場する「ピアノ」は、当時、広島市内の千田町に住んでいたある少女の家で使われていたものです。爆心地からの距離は約1.8Km。この家も爆風で壊れ、焼け落ちてもおかしくない位置にあったといえますが、当時にはめずらしいコンクリートの頑丈な造りだったことや、家の向きなどが幸いしたのか、屋根が飛び、天井が落ちるなどの被害はあったものの、なぎ倒されることはまぬがれたのでした。ピアノも爆風で壁にたたきつけられ、傷だらけになりましたが、家がなんとかもちこたえたおかげで、こうして今に残ったのです。

(絵本『ヒロシマのピアノ』(指田和子・文 坪谷令子・絵 文研出版刊より引用)

□ 矢川光則さん(被爆ピアノ管理所有者・調律師)のこと

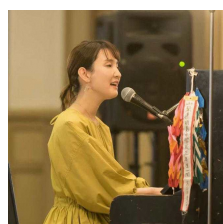
矢川さんは、広島市内でピアノ工房を主催し、ピアノ調律の仕事をしています。矢川さんが被爆ピアノに出会ったのは、平成17年(2005年)7月のことです。それまで、矢川さんは調律の仕事をするかたわら、壊れたり使われなくなったピアノを譲り受け、修理した後、ピアノのない施設に寄付したり外国に送る『ピアノのリサイクル活動』をしていました。それは「資源を守ろう、物を大事にしよう」といわれているこの時代にもかかわらず、まだ使えるピアノが、持ち主の事情で捨てられていく姿を数多く見てきたからでした。この活動のなかで、被爆したピアノにめぐりあったのです。持ち主の女性からピアノの思い出話をきいたり、改めて戦争や原爆の事を調べるうちに、それまで平和運動に関わりがなかった矢川さんの心に、変化があらわれます。やがてそれは「被爆したピアノの音色を多くの人に聞いてもらう事で、平和を考えるきっかけづくりができないだろうか」という思いに到達します。この背景には、当時爆心地から約800mの場所で被爆したものの九死に一生を得て、戦後被爆者として生き、数年前に亡くなった矢川さんの父親の存在がありました。このピアノが工房にやってきたとき、矢川さんは、子どもの頃に父親から聞いた被爆の体験談や、それを語るときの苦しそうな父親の表情がよみがえってきたといいます。「このピアノでコンサートを開こう。」こうして『被爆ピアノ平和コンサート』の輪は、今、全国に広がっています。

(絵本『ヒロシマのピアノ』(指田和子・文 坪谷令子・絵 文研出版刊より引用)

2003年広島市民表彰(市民賞)受賞、2006年日本善行賞(内閣府所管)受賞、2010年著書「海をわたる被爆ピアノ」(講談社)刊行、2012年国際文化交流奨励賞受賞、2015年広島県民文化奨励賞受賞、2017年ノーベル平和賞記念コンサート(ノルウェー・オスロ)に招聘、2019年谷本清平和賞(公益財団法人「ヒロシマ・ピース・センター」)、2020年自身がモデルの映画『おかあさんの被爆ピアノ』が公開。

□ 平和コンサート2026 出演者紹介

■ 南壽あさ子さん (シンガーソングライター)



凛としかつ温かい。透明感あふれる唄声の、不思議な魅力を備えるピアノの弾き唄い。2013年メジャーデビュー。これまで「積水ハウスの歌」はじめ、数多くのTVCMの声に選ばれている。2016年にヤマハミュージックコミュニケーションズへ移籍。NHK「みんなのうた」で放映されたポップな曲調の「鉄塔」が大きな話題となる。

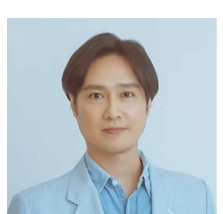
映画『おかあさんの被爆ピアノ』に、戦争当時、ピアノの持ち主だった井原千恵子の回想役で出演。併せて映画主題歌「時の環」の作詞・作曲、歌唱を担当。「被爆ピアノ平和コンサート in YAMAGATA」には、この映画主題歌が縁で2020年から出演。「時の環」ははじめその楽曲と演奏は、多くの聴衆の心をつかんできた。「時の環」は、昨年6月、アルバム『AMULET』中の1曲として日本コロムビアより発売された。

■ 橘 光一さん (キーボーディスト/オルガニスト/ピアニスト)



洗足学園短期大学音楽科電子オルガン専攻、同大学音楽学部パイプオルガン科を首席で卒業。電子オルガンによる、オペラ、ミュージカル等の伴奏を始める一方、キーボーディスト、ピアニストとして様々な歌手やアーティストのバックバンドで活躍。NHK教育テレビ『あいうえお』をはじめ、東京国際フォーラムのオープニングコンサート、長野パラリンピックカウントダウンコンサート、『さとうきび畑コンサート』等多くのコンサートに出演。洗足学園音楽大学・大学院の講師を経て、2012年1月1日より南魚沼市在住。現在、南魚沼市の交流大使を務めるとともに、全国で数多くの演奏会に出演中。「被爆ピアノ平和コンサート in YAMAGATA」には、2018年より毎年出演し、活動を力強く支えている。被爆ピアノで奏でられる多彩なジャンルの楽曲は、好評を博している。

■ 特別ゲスト 大沢 健さん (俳優・日本舞踊家)



子役として活動し、1988年映画「ぼくらの七日間戦争」で脚光を浴びる。その後、数々のドラマ、映画、舞台に出演。ドラマでは、フジテレビ「いつも誰かに恋してる」、NHK 大河ドラマ「徳川慶喜」、NHK 連続テレビ小説「梅ちゃん先生」、WOWOW「坂の途中の家」等。映画では「タンポポ」、「超少女 REIKO」、「海辺の映画館-キネマの玉手箱-」(大林宣彦監督)。舞台では、蜷川幸雄演出「王女メディア」、「ジャンヌ」のほか、ミュージカル「ふたり阿国」、「Same Time, Next Year」や、近年では韓国ミュージカル作品「HOPE」、「BLUE RAIN」等にも出演。ほかにも重厚な作品から特技の日本舞踊(花柳流師範・花柳恵右衛門)を生かした舞踊劇まで幅広い作品に出演している。映画「国宝」では、特技を生かし「和泉屋」の歌舞伎役者である生田庄左衛門役を演じた。